

(様式第16号)

学 校 評 価 実 施 状 況 調

改正学校教育法及び学校教育法施行規則が平成19年12月26日に施行されたことにより、各学校においては、教職員による自己評価を行いその結果を公表することが義務づけられ、併せて保護者その他学校関係者による評価を行いその結果を公表するよう努めるものとされました。

つきましては、各私立学校における学校評価の実施状況等について以下に記入願います。

学校教育法施行規則（抄）

第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。


2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定し行うものとする。

第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

[これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に準用されています。]

		学 校 名	常総学院中学校
平成30年度の状況			
1	学校評価の実施状況	※該当項目にチェック (未実施の理由)	
①	教職員による学校の自己評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
②	保護者等学校関係者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
③	第三者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
2	評価結果の公表状況		
①	保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	学校評議委員会にて公表
②	広く一般に公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	ホームページにて公表
令和元年度の計画			
1	学校評価の実施予定	(未実施の理由)	
①	教職員による学校の自己評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
②	保護者等学校関係者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
③	第三者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
2	評価結果の公表予定		
①	保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	
②	広く一般に公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	

※ 平成30年度の公表資料を添付すること。

評価者：学校関係者による評価者：常総学院高等学校同窓会会長 学校法人常総学院評議委員
飯田 晃久 

第三者による評価者：西根地区 有山 武 

平成30年度 常総学院中学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着において、朝自習や英単語テストと漢字テスト、また、放課後の特別講座を利用して基礎学力や応用力を身に付けさせていることは評価できる。これからもより一層きめ細やかな指導をお願いしたい。 ・挨拶、服装がしっかりしており、生徒指導が行き届いている様子がよくわかる。今後は学校の規律も含め社会的なマナー等も生徒に教えてほしい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> ・教科について、どの教科も基礎学力の定着を目標に努力していることがわかる。基礎学力とは何よりも「読み・書き・計算」であるという考え方に立ち、具体的な取り組みを行なっていることは今後の学力向上に役立つと思われる。 ・校務分掌では、具体的な目標を掲げ努力している。今後とも継続して行ってほしい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の方策に加え、さらに新たな取り組みをする場合は、無理のないように工夫し、生徒に学力をつけると共に人間性の向上も目指してほしい。
	Ⓑ どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	Ⓐ 策定できている	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を把握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目において一層の改善策を講じてほしい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

平成30年度 常総学院中学校学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導が行われており、将来、社会に貢献できる人材育成に努めていることが伺われる。 ・生徒指導の点においては、挨拶・服装がしっかりしており、指導の徹底が見受けられる。社会的マナーのさらなる向上に期待している。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、具体的目標を掲げて学力向上に取り組んでいる。 ・校務分掌においては、円滑な学校運営が行われており、学校の活性化に向けての努力が伺われる。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	Ⓐ 十分把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・校務分掌において、丁寧に現状分析が行われている。目標達成に向けて一層の努力を期待している。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	Ⓐ 策定できている	<ul style="list-style-type: none"> ・改善策を講じる際は、無理のないように工夫しながら行ってもらいたい。新年度においては方策を確実に実行し、改善に努めてもらいたい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

平成30年度 常総学院中学校自己評価表

★5段階評価 A:目標が十分達成された B:ある程度の成果が見られた C:取り組んだ D:取り組んだが課題を残した E:取り組まなかった

目指す学校像	『知育・德育・体育の円満なる人物の育成』との建学の精神に則り、「自主・誠実・創造」を校訓として掲げ、「文武両道」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを輩出することを目標とする。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策	
国語	基礎学力の定着と応用力の向上。自学自習力の育成を図る。	各学年に応じた教材の選択や精選とわかりやすい授業展開を心がける。	A	A	漢字検定に取り組ませ、1年生は全員5級合格、中学卒業時には全員3級以上合格を目指す。読書指導を充実させる。
		基礎学力定着のために、漢字テストや課題プリント等の工夫をする。	A		
		応用・発展力を育成するための適当な教材や課題を精選する。	A		
社会	基礎的な知識を身につけさせ日本人として国際社会で通じる人材の育成を図る。	中1は地理分野を学び、基礎知識の習得や系統学習に取り組ませる。常友祭で研究発表も行う。	A	A	グラフや資料等から別個の状況を推測・推理する能力(考える力)を養成する。ICT教育・ALへの取り組み。
		中2は歴史分野を学び、特に奈良京都で現地調査を行い、常友祭で研究発表を行う。	A		
		中3は歴史分野の後半と公民分野を中心に、現代社会の基礎的な知識や諸課題解決のあり方を考察させる。	A		
数学	綿密な授業計画をもとに基礎学力の定着と応用力の向上を目指す。	中1は予習→授業→復習の習慣化と課題提出期限の厳守を徹底する。	A	A	基礎学力を定着させつつ、応用力も養成する。
		中2は中1同様学習習慣の確立と発展応用力の向上を図る。	A		
		中3は高1の先取学習を行うと同時に全国模試対策の演習授業を充実させる。	A		
理科	自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。	中1は、観察、実験技能の習得と興味関心を育てる。	A	A	実験・実習のさらなる充実。ICT機器を利用した実験・観察の実施。学び合い等ALの実施
		中2は、科学的な見方や考え方を養う。	A		
		中3は、より深い知識の習得と学習方法を身につける。	A		
体育	体力を鍛え、集団での自己の役割を認識させ、自発的に行動させる。保健の基礎知識を習得させる。体育の授業において、怪我等の事故防止に努める。	体育の個人技量の向上と集団行動において他人を思いやる心を育成する。	A	A	体育分野での個人的技能の向上と保健分野の視聴覚教材のさらなる活用。デジタル教科書の導入。
		保健の授業では視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。	A		
		ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	A		
芸術	創造力と芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	音楽や美術を通して、感動や他人と協力して作り上げる達成感を育成する。	A	A	芸術分野に興味関心を持たせたい。
		中1～中3の3年間を通して合唱祭に参加し、協力しながら曲を作る過程を経験させることでコミュニケーション能力を培い、他者との心のふれあいを感じ取らせ、感受性を豊かに育てる。	A		
		中1は美術館見学、中2は写生会を通して絵画鑑賞制作を積極的に行う。	A		
英語	基本英単語の定着と会話力、基礎学力の向上を図る。	ネイティブの授業(1クラス3分割制)で英会話力を鍛える。	A	A	中学課程の基本内容を定着させ、英語を使って積極的にコミュニケーションをすることができる生徒の人数を増やし
		本校指定の基本英単語全てを全員が習得するまで根気よく追試験を行う。	A		
		教科書・補助教材の活用と反復練習で基礎学力定着と応用力を身につけさせる。	A		
技術家庭	学習を日常生活に生かし、自立に必要な生活技術の向上を図る。実習中の衛生面・やけどなどの事故防止に努める。	自立に必要な調理と被服の基礎基本を身に付けさせる。	A	A	実験・実習のさらなる充実。
		実験・実習の充実を図り、技術の向上を図る。	A		
		事故防止のために安全管理に努め、常に気を配る。	A		
総務課	学校行事調整と諸調査、学校要覧、公文書管理等。	年間行事計画立案と円滑な実施が可能となるように毎月各分掌と連絡調整を図る。	A	A	目標を「先読み」とし、3ヶ月前をみて行動する。(早めの対応)事務処理や文書処理でノーマスを達成する。
		茨城県私学振興室関連の諸調査及び回答文書作成を正確かつ迅速に行う。	A		
		学校要覧作成のとりまとめ業務全般を行う。	A		
	表簿類の手配や印刷室の管理、事務用品の管理等を行う。	出席簿、学級日誌、教務手帳、指導要録等の発注手配を教務と連携して行う。	A	A	
		印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。	A		
		筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	A		
渉外課	入学式、卒業式等の式典や父母の会総会等の総括を行う。	入学式、進級式等の式典関係の運営をとりまとめる。	A	B	円滑な運営方法の検討。
		父母の会総会の役員及び来賓者への連絡や対応を渉外課と協力してとりまとめる。	A		
		全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	B		
	父母の会総会や父母の会各支部活動の活性化。	父母の会総会や学級懇談会への保護者の出席増加を呼びかける。	A	A	
		父母の会各支部総会の出席者増加のための資料作成や講演内容の検討に努める。	A		
		父母の会研修旅行への積極的な参加を呼びかける。	A		
父母の会役員会や後援会会議等の補助。	父母の会正副会長会議や後援会等の事前準備及び会議運営の補助に努める。	A	A		
	父母の会関連諸会議への協力や出張補助に努める。	A			
	父母の会及び教職員懇親会などの準備や手配に協力する。	A			
父母の会広報活動。	父母の会新聞や父母の会各支部だよりの取材や編集、発行業務を支援する。	A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
施設環境課	教育施設全般の管理にあたる。	机、椅子、教卓、教壇、黒板、掲示板などの教室備品の管理と整理を行う。	A	学校備品のきちんとした管理、清掃作業の徹底を通して、学校環境の美化・向上に努める。 各教室の机、椅子の交換を速やかに進めていく。
		校内外の清掃活動の徹底と学校環境の整備・美化に努める。	A	
		清掃用具の管理や不足分の調達、その他必要な物品等の購入を検討する。	A	
	省エネ、防災活動の徹底。	年間2回の避難訓練の計画を立案し、実行する。	A	
		各種警報装置や防火管理設備の点検を定期的に行い万が一に備える。	A	
		照明器具の省エネに努めると同時にエアコンフィルターの清掃を定期的に行う。	A	
清掃状況確認及び学校見学会、入試関係の諸準備手配。	各教室やトイレ、特別教室などの常日頃から整理整頓を徹底させる。	A		
	各教室の机や椅子、その他不具合のある備品の交換や修理を計画的に行う。	B		
	学校見学会、本校入試会場準備の際の清掃の指示及び最終確認作業。	A		
生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り。	学校生活の上で不要な物品や特に携帯電話の校内持込禁止の徹底を図る。	B	学校内での生活指導強化の他、学校外での服装・マナーなど、生徒の意識向上を図る。自ら率先して挨拶や声掛けができるように声掛けを実施する。校外、校内での危険回避能力を身に付け、行動できるようにする。
		授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業中私語禁止の指導徹底を図る。	A	
		全員皆勤を目標に毎日学校に登校し、勉強に取り組む姿勢を指導徹底する。	A	
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	父母の会と連携し、各支部単位で祭補導や列車指導、バス指導などを展開する。	A	
		制服検討委員会、給食検討委員会、学年検討委員会等で学校との連携を図る。	A	
		父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換会や相談会の実施。	A	
心の教育の充実。	県立、私立高校共同の「さわやかマナーアップ運動」の展開。	A		
	社会のルールを守ることや他人への思いやりの大切さを徹底指導する。	B		
	消火活動や事故防止活動、その他いわゆる『善行』に対する意識の高揚を促す。	A		
特別活動課	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。	A	生徒会役員、生徒がさらに精力的に活動できるようにするために、時間・場所・物の3点を確保し、活発な運営を心がける。
		生徒会予算編成・執行に関する業務を正確・迅速に行えるよう支援する。	A	
		生徒会誌「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを持たせる。	B	
	サークル活動の活性化を図る。	各サークル活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。	A	
		野球応援等に積極的に参加するように呼びかけることで母校愛を高める。	B	
		新入生歓迎会で生徒会やサークル活動を紹介し、本校への帰属意識を高める。	A	
新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。	常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し創意工夫の力を育てる。	A		
	吹奏楽部や外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	A		
	常に洗面所にシャボン液、石鹸の有無を確認し、衛生管理に努める。	A		
保健課	保健衛生管理に努める。	休み時間ごとの換気や手洗い、うがい等を励行し、風邪の予防に注意させる。	A	保健だよりや掲示等で時期にあった情報が伝えられるよう充実を図り、個々にあった対応が実践できるようにしていく。
		施設環境課と連携し、教室や廊下の清掃を徹底し清潔な環境を保持する。	A	
		定期検診やその他マラソン大会などで問診を行い、健康に留意させる。	A	
	生徒の健康管理。	生徒及び保護者に「保健だより」を定期的に発行し、注意を促す。	A	
		さまざまな病気や注意すべき事柄を保健室前に掲示し、注意を促す努力をする。	A	
		体の病気や精神的な悩みについて相談する機会を設ける。	A	
教育相談の実施。	悩みのある生徒は担任・学年主任等と連携し、的確な対処を相談する。	A		
	専門医へ相談することを促したり、適切なアドバイスを行うように努める。	A		
	年休出張等は事前に変更し、突発休は当日授業補填を100%確実に行う。	A		
教務課	授業時間の確保に努める。	毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。	A	適切な学習指導の実施に向けて、教科書の選定や、教育課程・授業内容(シラバス)検討、見直しを進めていく。また、学習の進度や指導方法について随時確認をする。
		生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	A	
		内進及び外進の文系・理系のそれぞれの学力に応じた教育課程を編成する。	A	
	適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	中高6年(中高一貫コース)と高校3年(外進コース)の各シラバスを編成する。	A	
		生徒の学力に応じた教材とその進度及び深度計画を毎年見直すことに努める。	A	
		教科による研修の充実を図り、授業力の向上に努める。	A	
教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。	A			
フレッシュマン研修制度を利用し、授業方法の改善をこころがける機会を与える。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題・改善方策	
学習指導課	放課後の特講授業の年間計画の作成。	各学年のがキラムに並び、放課後特講授業を計画する際の調整役となる。	B	B	教科担任やクラス担任が個別指導・面談等を行う次時間の確保が課題である。	
		年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。	A			
	定期試験や模擬試験の結果を分析し、特講内容について随時各担当者と相談する。	B				
	夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	夏期休業期間中の前期、後期の特講授業や補習授業の各学年間の調整を行う。	A			
新入生のための指導計画を立案する。	夏休み中の各学年行事や野球応援などに臨機応変に対応できる体制を整える。	B	B			
	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。	A	A			
図書館課	読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	新刊書の中から、生徒には是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。	B	B		①図書室を利用して本を読むという生徒が少ない。図書委員を通じて、読書推進に努める。 ②夜間図書館利用におけるルールを徹底をする。
		生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。	B			
	文系・理系のジャンルで生徒が選択しやすいように本の配置を工夫する。	A				
	朝及び夜間図書館を利用した学習習慣の確立を目指す。	朝7:30より、さらに放課後から夜9:45まで図書館を開放し自学自習の場とする。	A			
朝及び夜間図書館を利用した学習習慣の確立を目指す。	図書館内では私語を一切禁止、黙々と集中して勉強する態度を育成する。	A	A			
	学習上の疑問について、夜間図書担当者は応じることに努める。	A				
進路指導課	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。	A	B	学年主導の進路指導を支援する。中学校と高校の進路指導の連携を検討していく。	
		将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。	A			
		「進路だより」を定期的に配布し、教員及び生徒間で共通理解を図る。	B			
	授業を中心に主体的な学習習慣を確立させ、学力向上を図る。	授業が大切であることを認識させるために、的確な進路情報を発信する。	A			
		学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。	B			
		学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、学方向上を支援する。	B			
進路情報の生徒・保護者への提供に努める。	生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三者面談時に配布する。	A	B			
	父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。	B				
情報処理課	個人情報保護法遵守と校内の情報処理の推進役を果たす。	校内LAN、インターネット環境の保守管理に努める。	A	A		校務で使用する教員用PC、授業で活用する生徒用PCの増台を行った。Classiの導入によって教員間の情報共有が円滑になった。教員に対してはバスワード等の情報漏洩の注意喚起を引き続き行っていく。生徒へ対しても情報リテラシーを養う時間を増やしていく。次の生徒用PCの増台に備えて、保管・活用体制を整えていく。細かな運用のルールを決めていくことでより円滑な
		学校関連のデータや個人情報の機密保持に細心の注意を払う。	A			
		個人情報保護の法的知識やデータの扱い方等について周知徹底を図る。	A			
	教職員の意見に耳を傾け、使いやすいOA環境を構築する。	定期試験成績処理システムの運用を円滑に行う。	A			
		生徒検索システム、電子カルテ、インターネット利用記録等のシステムの運用を図る。	A			
		模試の過去問をLAN上に公開し大学入試対策の利用に役立てる。	A			
入試業務及び在校生の個人情報管理。	入学試験受験者名簿の作成や事務手続きに必要な個人情報を取りまとめる。	B	B			
	新入生及び在校生の住所や連絡先などの個人情報を一括して管理する。	B				
	進路指導課や同窓会と連携し大学進学先や現住所の把握に努める。	D				
入試広報課	全員四年制大学への進学を前提に生徒募集を行う。	全員四年生大学への進学を前提とした生徒募集活動を展開する。	A	A	学習塾との連携をさらに強化。ホームページや説明会の改善などを通じて、本校の英語教育やクラスディスカッション、探究フィールド活動を通じたプレゼンスキルの向上、学習活動などをさらに積極的に紹介。進路講演会やEnglish Summer Lessonなど新たな企画立案と英検利用入試を実施することで	
		学習面に重点をおいた学校生活を紹介します。学習意欲あふれる生徒の獲得を目指す。	A			
		特講授業、補習体制、図書館夜間開放、学習合宿等の学習環境の充実を訴える。	A			
	「学力を伸ばすなら常総」という確固たる評価を広報活動する。	生徒一人一人の目標達成のための二者面談や日頃の親身な学習支援を紹介する。	A			
		模試成績や検定試験の結果等、他校と比較し本校生徒の優れている点をアピールする。	A			
		習熟度別クラス編成や文系・理系の目標大学別授業内容などを紹介する。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
中学1年	「向き不向きより前向き」をスローガンに何事にも積極的に挑戦していく姿勢を育てる。	PDCAシートやチェック手帳の提出で規則正しい生活リズムを習慣づける。	A	基礎から「楽しく学ぶ」姿勢を身に付けさせるために、特講を中心にアクティブラーニングの導入やICTを導入した授業の展開を図る。学年のリーダーを育成するため、学年組織としての学年委員会を設立し、定期的な会議によって学年の団結をうながす。
		英数国を軸とする習熟度別の特講体制の充実を図る。	A	
		挨拶や言葉遣い、身だしなみなどの細かな指導を徹底する。	A	
		集団での自己の役割、友人や教師との接し方などを細かく指導する。	A	
		学校と家庭の連携を重視するとともに学年教員間の共通理解にも配慮する。	A	
		ボランティアティーチャーの活用による将来のあり方と学習のきっかけをつかませる。	B	
中学2年	「Active Challenge 2018」をスローガンに何事にも「自分ごと」として挑戦していく姿勢を育てる。	何事にも一生懸命に行動し、周囲へ配慮できる生徒を育てる。	A	ポートフォリオへの取り組みやICTを活用した授業について、取り組み状況と模試結果の関係を検証する必要がある。そのうえで、より効果的なICT活用・ポートフォリオ記録に努めさせるために、「探究」に取り組みせ、主体的で深い学びへと誘導していく。
		成績上位者や下位者に的を絞った指導をする。	A	
		進路に関して、目標を具体化させる。	B	
		進路に関して面談時間を確保する。	B	
		英検、漢検、数検等の資格取得を推進し、目標に向かう姿勢を育てる。	A	
		きまり、時間、期限と守らせ、社会集団の一員としてのルール・マナーを養う。	A	
中学3年	『「self〜」持てる力を発掘せよ』何事も自力で行うよう促し、他の追従を許さない自己の努力によって、自身の持てる能力を最大限に発揮させる。	中学最高学年として模範となる生徒の育成をはかる。	A	高校生としての自律する意識づくりと、課外活動と学習活動の両立を図る。学習面では、今年度で学んだ高校課程の定着を目標とする。学校生活に対するモチベーションを高めるために、進路指導の強化を図り、文理選択を考えさせる。
		学校生活において友人と励まし競いあう中で自分自身を高めさせるよう指導する。	A	
		学習面で高校課程に移るため基礎事項の定着を目指す	A	
		ニュージーランド海外研修を通して国際人としての視点を考えさせる。	A	
		学校生活に対するモチベーションを高めるために、進路指導の強化をはかる。	B	
		英検、漢検、数検等の資格取得を推進し、目標に向かう姿勢を育てる。	A	